



『マリアの首』

田中千禾夫

田中千禾夫は明治三十八年（一九〇五）、長崎市生まれの劇作家、演出家。処女作『おふくろ』や、戦後の『肥前風土記』『マリアの首』など、長崎方言による詩的な表現を試みた作品を多く生み出した。

「幻に長崎を想う曲」という副題を持つ戯曲『マリアの首』は、原爆で廃墟となった浦上天主堂に残されたケロイドのマリア像を軸にした詩劇。作者の被爆者への思いや平和への祈りが込められた作品である。

文学碑は平成九年十一月、浦上天主堂の敷地内に建立された。戯曲終幕の「マリアの首」のせりふが、妻で劇作家の田中澄江の書によって刻まれている。

皆さんに　うちのお乳ば　たつぷりのまして
 おあぐっけんな　とつても甘か　甘かとば
 そうしてからゆつくり

皆さんのご相談にのりまっしょ　ね、ね！

（後略）